

## カキツバタ アヤメ科

*Iris laevigata* Fisch.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



岩美町 2010. 5.31/撮影：松本 綾

■**選定理由**：人為改変や利用の変化によって湿原環境が減少しており、本種の生育状況も悪化している。

■**特徴**：湿地流水部に群生する多年生草本。高さ約70 cm。根茎は横走する。葉は広線形、長さ30–70 cm、中肋は不明瞭。花期は5–6月。花は濃青紫色で、外花被片基部の斑紋は筋状白黄色、網脈模様を欠く。類似のノハナショウブは花色が紅紫色、葉の中肋明瞭。和名はカキツバタを布に押し付けて染めたという意味で「書き付け花」に由来。

■**分布** 県内：岩美町、鳥取市国府町、伯耆町、南部町。 県外：北海道、本州、四国、九州、朝鮮・中国（東北）・シベリア東部。

■**保護上の留意点**：湿地環境の保護・保全。湿地周辺自然林の保全。

■**特記事項**：国指定天然記念物「唐川のカキツバタ群落」

■**文献**：100.

執筆者：松本 綾

## ヒナノシャクジョウ ヒナノシャクジョウ科

*Burmannia championii* Thwaites

鳥取県：絶滅危惧I類(CR+EN)

環境省：—



倉吉市 2004.9.29/撮影：清末幸久

■**選定理由**：県内の自生確認地はごく限定されている。里山環境に生育し、人の利用減少にともなって衰退することが懸念される。

■**特徴**：高さ3–15 cmとなる腐生植物。葉緑体は持たない。湿潤な場所を好む。花期は8月から10月。県内での生育環境は放棄された薪炭林の林床。サイズも小さく、見つけるのは難しい。

■**分布** 県内：倉吉市。 県外：本州（関東以西）、四国、九州、沖縄。

■**保護上の留意点**：従属栄養の植物であり、ヒナノシャクジョウだけを保護するのは難しい。里山環境の保全が必要。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種

■**文献**：30.

執筆者：清末幸久

## イワタケソウ イネ科

*Hystrix duthiei* (Stapf) Bor subsp. *japonica* (Hack.) Baden, Fred. et Seberg

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



岩美町 2009.5.19/撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内東部に自生しているが分布地は少ない。湿潤な谷間のやや明るい林下に生育地が限定される。

■**特徴**：山地谷間の林下、林縁の湿潤な場所に生える多年生草本。林下の落ち葉の堆積したところに小群生している。高さ80 cmぐらい。葉は広線形、平滑、基部でよじれて表裏反転する。花期は6–7月、穂状花序は1個、斜上して先が垂れる。小穂は1小花、長さ約1 cmで長い芒がある。同じような環境にはえるアズマガヤは、小花は2個、花軸に軟毛がある。和名は原産地福岡県岩岳に由来する。

■**分布** 県内：岩美町、鳥取市佐治町、八頭町、日南町。 県外：本州（中部以南）、四国、九州。

■**保護上の留意点**：山地谷間の植生保護。

■**文献**：—

執筆者：坂田成孝

## アイアシ イネ科

*Phacelurus latifolius* (Steud.) Ohwi

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



大山町 2010.9.5/撮影：浜田幸夫

■**選定理由**：県内での自生は1カ所のみだが、群生している。10年前より個体群の状態は少し改善し、今改訂ではNTと判定した。

■**特徴**：沿岸の塩性湿地に群生する多年生草本。地下茎は太く、横にはう。茎は節が多く、高さ1.5 mに達する。葉は粉をまぶしたような白緑色、長さ20–40 cm、幅は約2 cmで広線形、やや厚みがあり、基部は鞘状である。花期は6–10月、紫白緑色を帯びる。花穂は太く斜上し、穂の長さは10–15 cmで5–10個が掌状に開く。大山町の自生地は、水田から海岸にいたる乾燥した段丘に幅5 m、長さ約150 mにわたって、潮風を受けて群生。季節風の時期には、波しぶきが自生地に降り注ぐ環境である。採取等の心配はないが、海岸の整備事業などで刈りはられる恐れがある。

■**分布** 県内：大山町。県外：北海道，本州，四国，九州。

■**保護上の留意点**：地元で希少性を周知し、保護体制を作ることが必要。

■**文献**：—

執筆：浜田幸夫（鳥取県西部希少野生植物保全調査研究会）

## ヒロハテンナンショウ サトイモ科

*Arisaema ovale* Nakai var. *sadoense* (Nakai) J.Murata

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



智頭町 2009.6.19/撮影：坂田成孝

■**選定理由**：ブナ林下に多く、ブナの伐採とともに減少。ブナ帯域の尾根、谷間のやや明るいところにも生育するが、周辺の環境変化に懸念あり。

■**特徴**：主にブナ林下に見られる多年生草本。高さ50 cm内外、球茎は多数の子球をつける。葉は1枚で鳥足状。花軸の付属体の柄はない。花期は5–6月。仏縁苞は長さ10 cm内外、黄緑色、光沢があり、白条が隆起する。花序の付属体は苞より短い。県内低地の広葉樹林下にあるウラシマソウは花序の付属体が糸状に伸びて苞の外に長くでる。

■**分布** 県内：岩美町，若桜町，智頭町，倉吉市，大山町，日南町。県外：北海道，本州，九州，主として日本海側。

■**保護上の留意点**：ブナ林とブナ帯域山地尾根の自然環境の保護。

■**文献**：—

執筆：坂田成孝

## ウラシマソウ サトイモ科

*Arisaema thunbergii* Blume subsp. *urashima* (H.Hara) H.Ohashi et J.Murata

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



八頭町 2004.5.12/撮影：坂田成孝

■**選定理由**：特異な形状を好んで採取される。県内東部の海岸部では道路拡張で、社寺林では過剰な草刈などで減少傾向にある。

■**特徴**：照葉樹林下の湿ったやや暗い所に生育する大型の多年生草本。雌雄異株。栄養状態で雌雄転換が起こる。葉は長柄があり。鳥足状の複葉1枚。小葉11–15枚。花期は4–5月。花は仏縁苞花で暗紫色。花軸の先（付属体）は一度高く立ち上がり、垂れ下がって長いヒモ状になる。長さ40–50 cm。果実赤熟。有毒。和名は浦島太郎の釣り糸にたとえたもの。

■**分布** 県内：岩美町（海岸部の山地，社寺林），鳥取市・福部町，八頭町（神社の境内にマムシグサと群落をつくり，採取圧あり），湯梨浜町，大山町，伯耆町，江府町。県外：北海道，本州，四国，九州。

■**保護上の留意点**：採取防止，照葉樹林の保護。

■**文献**：—

執筆：井上喜美子



## ナンゴクウラシマソウ サトイモ科

*Arisaema thunbergii* Blume subsp. *thunbergii*

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：—



南部町 2010.5.13 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内での生育地がきわめて限定されており、生育本数もわずかである。鑑賞目的に採取されることがあり絶滅の危険性が高い。

■**特徴**：低山地のやや陰湿な林内に生育する暖帯性の多年生草本。高さ30–40 cm。長柄の先端に11–17に分裂した鳥足状の葉を1個つける。花期は5月で、仏炎苞は長さ10–15 cm、筒部は白色で紫褐色斑があり、舷部は暗紫褐色、付属体はつり糸状に長く伸び、その基部は淡黄褐色でしわがある。自生地ではスギの人工林内にシダ類と混生している。

■**分布** 県内：南部町。県外：本州（兵庫県以西）、四国、九州。

■**保護上の留意点**：自生地スギ林の急激な環境変化（伐採等）の防止。採取防止。

■**特記事項**：県内が分布北限である可能性が高い。

■**文献**：—

執筆：矢田貝繁明

## ザゼンソウ サトイモ科

*Symplocarpus foetidus* Salisb. ex W.P.C.Barton var. *latissimus* H.Hara

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



智頭町 2009.4.16 / 撮影：上田康恵

■**選定理由**：湿地の乾燥化や泥質地の流失など環境の悪化により個体数が減少。智頭町倉谷ではシカの食害甚大。

■**特徴**：山地の湿った林の下や湿原に生育する多年生草本。地下に短い根茎と太い根がある。葉は長さ幅とも20–40 cmと大形。花後に展開する。花期は4月。先端内曲したボート状の仏炎苞花で暗赤色。真正花は肉穂花序につき黄色。果実はその年の夏に熟す。仏炎は仏像の後に立てる光背をさす。座禅草、別名ダルマソウとともにその姿をうまく現している。智頭町では、盗掘と思われる穴が見つかったことがある。

■**分布** 県内：岩美町、若桜町、八頭町、智頭町、鳥取市、三朝町、倉吉市。県外：北海道、本州（鳥取県以北）。

■**保護上の留意点**：ブナ帯域谷沿いの湿地の自然植生保護。

■**特記事項**：県内が分布南西限、国立・国定公園採取禁止指定種

■**文献**：—

執筆：井上喜美子

## ヒメザゼンソウ サトイモ科

*Symplocarpus nipponicus* Makino

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：—



日南町 2008.6.8 / 撮影：藤原文子

■**選定理由**：県内での生育地は極めて限定されており、個体数も少ない。10年前より個体数はかなり減少した。

■**特徴**：山地の湿地に生育する多年生草本。地下茎は太くて短く、丈夫な太い根が多数できる。葉は早春に根出、外部のものは膜質で茎を包む。内部のものは長柄がある。葉身は大型卵状長楕円形で長さ20–40 cm。鈍頭で基部は円形–やや心形。肉厚で全縁、両面無毛で6月下旬に枯れる。花期は5–6月、暗赤褐色の小型仏炎苞花。肉穂花序は黄色、果実は翌年に熟す。苞はずきん状で3–5 cm、暗紫褐色。花は両性。近縁のザゼンソウとは葉の形態、花の時期や大きさなどの差異で区別は容易。

■**分布** 県内：日南町。県外：北海道、本州の日本海側。

■**保護上の留意点**：山地、湿地の保全管理。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種

■**文献**：26.

執筆：藤原文子（鳥取県西部希少野生植物保全調査研究会）

## ミクリ ミクリ科

*Sparganium erectum* L.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



八頭町 2009.5.31/撮影：坂田成孝

■**選定理由**：千代川、天神川の河川敷や用水路に点在するが、改修によるコンクリート化のため生育適地が減少している。

■**特徴**：河川敷、用水路に群生する抽水性の多年生草本。走出枝が横走り群生する。茎は直立し、高さ1 m内外。葉は線形、やわらかい。花期は5-9月。花序は茎の上部に腋生、分枝、頭状花、上部に雄花多数、下部に雌花数個つける。ミクリ類の中では植物体、果実とも大きく、花序の枝が3本以上ある。

■**分布** 県内：鳥取市、八頭町、倉吉市。県外：北海道、本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：用水路、河川敷の水辺の保護。

■**文献**：—

執筆者：坂田成孝

## ヤマトミクリ ミクリ科

*Sparganium fallax* Graebn.

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



日南町 2008.7.14/撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内では西部のため池、湿地にてわずかに確認されている。湿地が周辺の樹木に覆われ、大型の草本類が増えて減少傾向顕著。東部の湿地でも以前は確認されていたが、絶滅した可能性が高い。

■**特徴**：湿地、ため池の湿地化した場所に生える多年生の抽水植物。浅い水深の泥地に群生する。花茎は1 mぐらい。葉は裏面に稜がある。花期は6-9月、白色。花序は分枝しない。下部は雌性頭花で柄が主軸と途中まで合着するため、苞の反対側につくように見える。上部のものは雄性頭花。果実は紡錘形、中央部がくびれる。東部の唐川湿原では、2003年頃から上部水田跡に水供給がなくなって、イノシシの餌場になった結果、本種が絶滅したと思われる。

■**分布** 県内：日野町、日南町。県外：本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：湿地の水源管理、大型草本の刈り取り。

■**文献**：—

執筆者：坂田成孝

## ナガエミクリ ミクリ科

*Sparganium japonicum* Rothert

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



八頭町 2010.8.13/撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内東部の限られた河川敷、用水路、ため池に小規模に群生する。用水路のコンクリート化、高茎草本の被圧により減少。

■**特徴**：低地の河川敷、用水路、ため池に生育する抽水性の多年生草本。走出枝が横走り群生する。茎は直立し、高さ1 m内外。葉は線形、やわらかい。花期は5-9月。ミクリとは花序が分枝せず、果実が紡錘形であることで、ヤマトミクリとは最下の雌性頭花が腋性であることで区別する。米子市、南部町の自生については2002年以降確認されていない。

■**分布** 県内：鳥取市・気高町、八頭町。県外：北海道、本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：用水路、ため池、河川敷の水辺の植生保護。

■**文献**：—

執筆者：坂田成孝



**ヒメミクリ** ミクリ科  
*Sparganium subglobosum* Morong

鳥取県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



日南町 2008.7.24/撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内では西部のため池と東部の湿地に生えるのみ。いずれも環境変化のため、個体数が減少している。

■**特徴**：湿地，ため池の浅い水深の泥地に群生する多年生の抽水植物。ヤマトミクリに比べやや小さく，高さ50-70 cm，葉の幅が3-5 mmでやや狭い。雌性頭花は無柄。果実は柄がなく，倒卵形。東部の湿地は県の保護指定地であるがヨシの繁茂で個体数が減少している。西部のため池では利用が減り湿地化して，環境変化が著しい。このため池には希少種であるムラサキミミカキグサ，ジュンサイ，イヌタヌキモ，コマツカサススキ，トキソウ，オニスゲ，ノハナショウブ，コウホネ，ミヤコアザミが自生しており，保全対策が急がれる。

■**分布** 県内：鳥取市国府町，日南町。県外：本州，四国，九州。

■**保護上の留意点**：湿地，ため池の保全と植生の保護。

■**文献**：—

執筆：坂田成孝

**ウキヤガラ** カヤツリグサ科  
*Bolboschoenus fluviatilis* (Torr.) Soják subsp. *yagara* (Ohwi) T.Koyama

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



北栄町 2005.5.25/撮影：坂田成孝

■**選定理由**：平地の河川，干拓地などの水湿地に群生する。河川改修その他で水湿地，湿田，干拓地，ため池の減少にともない希少化してきた。

■**特徴**：河川，ため池，干拓地の水辺に群生する多年生の抽水植物。地下茎が横走し，節は3-4 cmの塊状となる。茎は3稜あり，高さ1 mを越し，節に葉がある。花期は5-8月。花序は頂生し散房状。小穂は長楕円形で茶褐色，花序枝の先に1-6個集まってつく。柱頭は3裂。コウキヤガラは塊茎が小形。花序が数個の小穂で花序枝が1-2本出る。

■**分布** 県内：鳥取市・福部町，八頭町，北栄町，琴浦町，米子市，日野町。県外：北海道，本州，四国，九州。

■**保護上の留意点**：海岸の水湿地の保護。用水路，ため池の保全管理。

■**文献**：—

執筆：坂田成孝

**コウキヤガラ** カヤツリグサ科  
*Bolboschoenus koshevníkovii* (Litv. ex Zinger) A.E.Kozhevnik.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



米子市 2010.5.28/撮影：坂田成孝

■**選定理由**：海岸干拓地の浅水域，海岸岩場のタイドプール，低地の水田に群生するが分布地は少ない。干拓地は陸地化が進み，水田の自生地もわずかである。

■**特徴**：海岸干拓地，水田に群生する多年生の抽水，湿生植物。水田では雑草化しているが，面積的には少ない。地下茎が横走し先端に塊茎がある。茎は3稜あり，高さ1 m。花期は6-8月，花序は頂生するものは頭状に密生してつき，花序枝を1-2本もつものもある。苞葉は3枚で花序より長い。果実は広卵形，断面レンズ状。柱頭2裂。米子市彦名では，干拓地の乾燥化が進んでいる。気高町浜村の水田には小群落が残るのみ。

■**分布** 県内：鳥取市気高町，米子市。県外：本州，四国，九州，沖縄。

■**保護上の留意点**：海岸の干拓地，海岸タイドプール，湿田のような水湿地の保護。

■**文献**：—

執筆：坂田成孝



## クロカワズスゲ カヤツリグサ科

*Carex arenicola* F.Schmidt

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



米子市 2010.6.1/撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内の生育地は湿地周辺に限られている。湿地の自然変化により自生地が少なくなっている。

■**特徴**：海岸から山地の砂質の湿地に疎生するスゲ。匍匐枝は横に長くはい群落をつくる。葉は幅2-3 mm。有花茎は20-30 cmが多く、茎の上部に無柄小穂が集まってつく。小穂は雄雌性で上部に雄花、基部に雌花をつけ、長さ5-8 mm。雌鱗片は果苞と同長、褐色を帯びる。果苞は卵形、長嘴、口部は斜切、熟すと褐色を帯びる。類似のミノボロスゲ類は根茎が短く叢生し、無柄小穂がやや離れてつくことで見分ける。調査不足のため、県内のため池、海岸の水湿地などを調査する必要がある。

■**分布** 県内：米子市、江府町。 県外：北海道、本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：湿地周辺の草地保護。草刈り管理の必要な場所あり。

■**文献**：—

執筆：坂田成孝

## ミヤマイワスゲ (カンサイイワスゲ) カヤツリグサ科

*Carex chrysolepis* Franch. et Sav. var. *odontostoma* (Kük.) Ohwi

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：—



氷ノ山 2007.6.11/撮影：坂田成孝

■**選定理由**：全国的に少なく、本州では大峰山と氷ノ山のみに産する。県内の自生地は氷ノ山のごく一部で、個体数も少ない。

■**特徴**：岩の割れ目に根を下ろし叢生し、株状になるかマット状になるスゲ。基部の鞘は淡褐色、繊維に分解する。葉は有花茎と同じか長い。有花茎は高さ30-40 cmほどのものが多い。頂小穂は雄性で褐色、側小穂は雌性で長さ1-3 cm、2-3個離れてつき、下方のものは柄が長い。雄鱗片は鋭頭。果胞は狭長楕円形で鱗片より長く有毛。柱頭3岐。生育地は氷ノ山の頂上近くの露岩地北側であり、風当たりが強く厳しい環境である。

■**分布** 県内：若桜町。 県外：本州 (大峰山)、九州 (熊本県、対馬、屋久島)。

■**保護上の留意点**：岩上は狭く崩壊の恐れもある。厳重な採取防止が必要。

■**文献**：19.

執筆：坂田成孝

## ダイセンスゲ カヤツリグサ科

*Carex daisenensis* Nakai

鳥取県：その他の重要種 (OT)

環境省：—



鳥取市 2010.5.24/撮影：坂田成孝

■**選定理由**：大山の名がつくが、県内では低地から大山まで点在する。

■**特徴**：県内の低山から山地の落葉広葉樹林内のやや明るい林下、林縁、草地などに見られるスゲ。根茎は密に叢生する。基部の鞘は黒褐色、繊維状になって長く残る。葉は有花茎と同じかやや長く、幅4-6 mm、深緑色。有花茎は高さ30 cm前後。頂小穂は雄性、線柱形、緑白色で長さ2-3 cm。側小穂は雌性で2-4個、離れてつき直立する。果苞は長さ3.5-4.5 mm、脈と毛があり、嘴はやや長く、口部2小歯となる。県内に多産するミヤマカンスゲは、基部の鞘が光沢のある紫褐色で繊維状に分解しない。

■**分布** 県内：各地に点在。 県外：本州 (福井県以西の日本海側)、九州 (北部)。

■**保護上の留意点**：里山、山地の草地など身近な自然の保全管理。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種

■**文献**：—

執筆：坂田成孝

**ホスゲ** カヤツリグサ科

*Carex deweyana* Schwein. subsp. *senanensis* (Ohwi) T.Koyama

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：—



氷ノ山 2007.6.28 / 撮影者：坂田成孝

■**選定理由**：本来は亜高山帯に産し、県内では氷ノ山のみで自生する。生育地はきわめて限定され個体数もわずかである。

■**特徴**：山地の草地に叢生するスゲ。葉は有花茎より短い。有花茎は高さ50 cmほどで鋭い稜がある。花序は5-9個の無柄の小穂をまばらにつける。苞の葉身は下方1-2個が小穂より長い。小穂は雌雄性で淡緑色、長さ1 cmぐらい。雌鱗片は緑白色、果胞より少し短い。果胞は卵状披針形で扁平、長嘴、口部2歯。柱頭2岐。日南町に生育するタカネマスクサは、有花茎が鈍稜、苞の葉身が花序よりも著しく長いこと、分布標高が600 mほどであることで区別できる。

■**分布** 県内：若桜町。県外：本州（鳥取県以北の日本海側）。

■**保護上の留意点**：山地草原の自然植生保護。

■**特記事項**：分布西限

■**文献**：18,31.

執筆：坂田成孝

**オニスゲ** カヤツリグサ科

*Carex dickinsii* Franch. et Sav.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



三朝町 2008.7.1 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内では、三朝町、日南町の山間の湿地に生育する。東部の湿地にはない。自生地は少なく群生している面積も狭い。

■**特徴**：県内では山地の湿地、ため池、たたら跡の湿地に群生するスゲ。匍匐枝を伸ばし群生する。有花茎は高さ20-50 cm。小穂が有花茎の上部に集まってつき、果胞が10 mmほどの大きさになるスゲの仲間は県内では本種のみ。和名のオニスゲにふさわしい小穂である。

■**分布** 県内：三朝町、日野町、日南町。県外：北海道、本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：山間の日当たりがよい湿地に自生し、小穂が目立つので湿地保護の目安となる。

■**文献**：—

執筆：坂田成孝

**ケスゲ** カヤツリグサ科

*Carex duvaliana* Franch. et Sav.

鳥取県：情報不足 (DD)

環境省：—



鳥取市 1990年代採集標本 田中昭彦

■**選定理由**：県内では千代川流域の河原草地にまれ。洪水により個体群は不安定。日本海側では稀産。

■**特徴**：草地に生える多年生草本。茎、葉、花序など全体に開出する軟毛が生える。茎の高さ30-50 cm。基部の鞘は緑色から淡色。根茎は疎に叢生し、短い匍匐枝を出す。葉は幅1.5-2 mm。頂小穂は雄性、長さ約3 cm、側小穂は雌性で長さ2.5-3.5 mm。近年の調査では、千代川での生育が確認できておらず、継続的な調査が必要。

■**分布** 県内：鳥取市河原町の千代川河川敷。県外：本州（関東以西）、四国、九州太平洋側。中国。

■**保護上の留意点**：河川草地の適正な保全管理。

■**文献**：—

執筆：田中昭彦



## ヒロバスゲ カヤツリグサ科

*Carex insanae* Koidz. var. *insanae*

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—



鳥取市国府町 2007.5.20/撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内の自生は1地点のみで生育，面積，個体数とも少ない。周辺の樹木が伐採されると絶滅のおそれ大である。北方系で日本海側に多く見られ，県内の集団は分布解明に重要。

■**特徴**：林下のやや湿った場所に叢生するスゲ。基部の鞘は淡色。葉は濃緑色で幅1 cmと広く，有花茎より長い。有花茎は30 cmほど伸びるものと根元に10 cmほど匍匐する2型がある。果胞は長さ5-6 mm，有毛。県内に多産する葉幅の広いオクノカンスゲ（ハバビロスゲを含む）は葉の断面がM字状，谷間に群生し，有花茎は高さ40 cmほどで根元にはない。サンインヒエスゲは匍匐枝があることで区別可能。

■**分布** 県内：鳥取市国府町。県外：北海道，本州（中部以北の日本海側）。

■**保護上の留意点**：本種の生育地は県内ブナ下限（標高300 m）で，ブナを含む周辺の森林を残すことが本種の絶滅を防ぐためにも重要。

■**文献**：—

執筆者：坂田成孝

## サンインヒエスゲ カヤツリグサ科

*Carex juboanensis* J.Oda et A.Tanaka

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



鷲峰山 1977.4.20/撮影：田中昭彦

■**選定理由**：登山道脇に生え，人の踏みつけや刈り払いによる衰退が懸念される。鳥取市鹿野町が基準産地。

■**特徴**：低山林縁の陽光下に生育する多年生草本。長い匍匐枝を四方に伸ばし，疎生し，広範囲に群落を形成する。葉は有花茎とほぼ同高，幅3-8 mm，平滑。有花茎は高さ20-40 cm，頂小穂は雄性，棍棒状，長さ2-3 cm，褐色。側小穂は1-3個，果胞は狭卵形，長さ6-8 mm，2004年に県内から新種として発表。

■**分布** 県内：岩美町，鳥取市・用瀬町・鹿野町，智頭町。県外：福井県から広島県にかけて確認されている。

■**保護上の留意点**：採取禁止。山地林の伐採防止。登山道の維持作業時に注意。

■**文献**：62。

執筆者：田中昭彦

## サツマスゲ カヤツリグサ科

*Carex ligulata* Nees ex Wight

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—



大山町 2006.6.30/撮影：永松 大

■**選定理由**：南方系の種で，県内では常緑広葉樹林内に数カ所自生するのみで個体数わずか。採取されると絶滅するおそれが極めて高い。

■**特徴**：シイ，タブが多い常緑広葉樹林内に叢生するスゲ。苞の葉身に特徴があるが，花序がないときはイネ科植物と間違いやすい。有花茎は50 cmほどに伸びやや傾く。基部の鞘は葉鞘がなく紫褐色，匍匐枝はない。上の苞の葉身が長くイネ科の茎葉のように見える。頂小穂は雄性で1個，長さ2-3 cm，側小穂は雌性，密に果胞をつけ柱状，果胞に毛が密生。類似のビロードスゲはブナ帯域，花崗岩風化の谷に群生，根茎が横にはい，上部に雄小穂が2-3個ある。

■**分布** 県内：倉吉市，北栄町，琴浦町，大山町。県外：本州（関東以西），四国，九州。

■**保護上の留意点**：自生地の常緑広葉樹林の保護。採取防止。

■**文献**：65。

執筆者：坂田成孝



**オタルスゲ** カヤツリグサ科  
*Carex otaruensis* Franch.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



若桜町 2009.6.18 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：北方系の種で、県内全域に分布するが群落をつくることがほとんどなく個体数は少ない。

■**特徴**：県内では山地の湿地、山間の溪畔の水湿地に叢生するスゲ。基部の鞘は赤みを帯びた濃褐色で糸網がある。有花茎は高さ40–60 cm。頂小穂は雄性で線形、側小穂は雌性で長い柄がある。雌鱗片は狭長楕円形で淡緑色。果胞は平滑で無脈。嘴はやや長い。県内の平地から山地の溪畔に多産するヤマアゼスゲは株状に叢生し、基部の鞘が淡褐色、果胞は平滑で脈があり嘴が急に短くとがる点で区別。和名は北海道小樽に由来。

■**分布** 県内：鳥取市国府町、八頭町、智頭町、関金町、江府町、南部町、日野町、日南町。 県外：北海道、本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：山地の湿地、水湿地の保護。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種

■**文献**：—

執筆：坂田成孝

**ヒメスゲ** カヤツリグサ科  
*Carex oxyandra* (Franch. et Sav.) Kudô

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



大山 2009.6.26 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内では主に氷ノ山、大山山系の山頂付近の岩場の割れ目に叢生する。自生地、個体数ともにごく少ない。

■**特徴**：山地の岩場に叢生するスゲ。県内での生育地は、標高1200 m以上の山頂尾根の岩場に限定されている。基部の鞘が濃赤色、雌鱗片も赤みを帯びる。有花茎は20 cmほどのものが多く、小穂は上部にかたまってしまう。低地の草地に多産するアオスゲ類は基部の鞘は淡色–褐色、雌鱗片は淡緑色である。

■**分布** 県内：氷ノ山、那岐山、大山山系。 県外：北海道、本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：高山地の岩場の自然植生の保護。

■**文献**：—

執筆：坂田成孝

**オオクグ** カヤツリグサ科  
*Carex rugulosa* Kük.

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



米子市 2003.6.6 / 撮影：神谷 要

■**選定理由**：分布が限られ、護岸工事により生育地が狭められてきた。

■**特徴**：汽水域の湿地に生育する大型の多年生草本。県内では中海沿岸にのみ群生。高さ60–80 cm。花期は4–6月、雄花穂は頂生、細く円柱形である。雌花穂は下方に数個。シオクグによく似ているが、シオクグに比べて大型で、葉幅が5–10 mmあることが特徴である。1997年に中海の護岸工事により自生地が失われることとなり、米子水鳥公園のトンボ池に移植が実施された。

■**分布** 県内：米子市。 県外：北海道、本州、九州。

■**保護上の留意点**：汽水域の湿地植性の保全。汽水域に面した地域で湖岸工事をする際に、作業道とする休耕田や水路に生育している可能性があり注意が必要。

■**文献**：1,37.

執筆：神谷 要

## ベニイトスゲ カヤツリグサ科

*Carex sachalinensis* F.Schmidt var. *sikokiana* (Franch. et Sav.) Ohwi

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



日野町 2008.5.21/撮影：坂田成孝

■**選定理由**：本州近畿以西に分布する暖地性の種で、県内では西部に稀産。生育地が山間の草地に限定されるので生育環境の維持が困難である。

■**特徴**：山間の草地にはえ、まばらに叢生するスゲ。匍匐枝を出して繁殖する。有花茎は高さ30 cm内外。葉は小穂と同じかやや長い。雌小穂はやや離れてつく。嘴の長さは中位。オオイトスゲの変種で、鞘や雄小穂が赤紫褐色を帯びる。雌鱗片も赤褐色を帯びることが多い。県内高山地の尾根でよく見るキイトスゲは基部の鞘や雄小穂が黄褐色で、雌鱗片も黄褐色を帯びる。

■**分布** 県内：日野町。県外：本州（近畿以西）、四国、九州。

■**保護上の留意点**：里山の自然環境と谷間の草地の保護。

■**文献**：—

執筆：坂田成孝

## シオクグ カヤツリグサ科

*Carex scabrifolia* Steud.

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



米子市 2009.5.23/撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内では生育適地が少なく分布が限られる。護岸工事により生育環境が改変され、個体数が減少してきた。

■**特徴**：汽水域の湿地に生育する大型の多年生草本。シオクグは、海岸や河口の波浪の影響を受けないような場所に生育し、高さ30–60 cm。花期は4–6月、雄花穂は頂生、細く円柱形である。雌花穂は下方に数個。オオクグによく似ているが、オオクグに比べて小型で、葉幅が5 mm以下であることが特徴である。中海周辺の米子水鳥公園を中心とする地域に分布している。

■**分布** 県内：米子市。県外：北海道、本州、四国、九州、塩性の湿地。

■**保護上の留意点**：汽水域の湿地植性の保全。汽水域に面した地域で湖岸工事をする際に、生育している可能性があり注意が必要。

■**文献**：37.

執筆：神谷 要

## ダイセンアシボソスゲ カヤツリグサ科

*Carex scita* Maxim. var. *parvisquama* T.Koyama

鳥取県：絶滅 (EX)

環境省：絶滅危惧IA類 (CR)

No Photo

■**選定理由**：県内では1970年頃、烏ヶ山山頂部の岩峰に生育しているのが確認されていた。その後何度か調査が行われたが、現在まで生育は認められていない。

■**特徴**：高山の草原に生える多年草。より分布の広いミヤマアシボソスゲに比べ果胞の幅が広く、大山特産とされる。桿はややまばらに叢生、高さ約30 cm。頂小穂は雄性で1個、側小穂は雌性で数個、黒紫褐色、下垂する。烏ヶ山の自生地は、生育していた小岩峰が崩落したことで、絶滅したと考えられる。

■**分布** 県内：絶滅。県外：未発見。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種

■**文献**：—

執筆：清水寛厚・永松 大